

辞職勧告決議案に対する本会議における審議

決議案の提出者である児玉悦朗議員から提案理由が説明され、討論を経て起立採決を行った結果、賛成多数で原案のとおり可決されました。

賛成討論

理由について端的に申し上げると、まず、かづの観光物産公社の問題に関して、19日の全員協議会の中で、私の一般質問に対する市長の答弁内容の訂正とその謝罪、そして9月20日の物産公社代表取締役社長の解任についての撤回を求めていた。

しかし、本日の市長の発言では不当性の立証を示しているにもかかわらず、その点について一切触れていない。これは極めて不誠実で誠に遺憾である。

次に公職選挙法の疑いについて、新聞報道等でその内容は十分把握できるはずだが、市長は中身が分からないと説明を避け逃げています。市のリーダーとして、その問題に真摯に向き合う姿勢が見受けられない。

また、選挙公約についてもこれまでいろいろ質問してきましたが、実現性を約束されて、多くの支持を得て当選されている。しかし公約の内容をすり替え、正当化していることは否めない。産婦人科や大学の創設など聞こえはいいが、

実際にやっていることは違っている。必ずやる、やり遂げると言っている。これは当然票は集まる。具体的な構想を示して当選されているが、いつの間にか消えてなくなっている。これは市民に対する背任行為である。

したがって市長としての不誠実な態度、自覚の欠如、首長としての適性を欠いていることは明白で、即刻の退陣を求める。(戸田芳孝議員)

反対討論

こうした責任というものは任期満了をもった次の選挙で問われるべきで、現段階で公約やその他の関係性において早々に結論を出し、辞職を求めるとするのは、市民によって選ばれた市長、市民の負託に対する敬意を踏みにじるものではないか。

指摘の説明責任というところにおいては、細部を見れば同意するところはありますが、大局的な観点では市長は一貫している。例えば、大学の創設においては、キャンパスがあるものであるか、サテライトキャンパスという形なのか、その違いにおいて、公約を実施していないというのは、重箱の隅をつつくような議論になりかねない。鹿角市がどういうふうに発展していくべきか。それに当たりどのような大学を誘致してくるかというところに議論の重点が置かれ

るべきで、一般質問における追及というのも、大局的な話をかき消すような質問であったのではないか。

告発の案件については、これは刑事事件であり、警察も関わることで、発言の重さというのものもある。現在、捜査機関などから具体的な情報が示されていない段階で、そこまでの追及をする根拠はない。また、県や国との関係性が崩れているということに対する明確な根拠がなく、むしろ関係性がより向上している部分は大きいにある。

さらに、あんたらあの経営について、細かい所を言えばきりがなが、これまでの11年間の経営状況が、なぜ表に出てこなかったのか。なぜ議会としての指摘がなく、執行部からの問題提起もなく、このような状況になってしまったのかという部分は考えるべきところ。表面的な経理の問題を市長が決算資料等から指摘していたが、経理だけの問題ではなく、そういった状態が放置されていた体質が一番大きな問題ではないか。

大局的な部分で、市長は誠実に市政を実行しており、ましてや辞職勧告決議という市民の負託をも覆すようなものには当たらない。

(笹本真司議員)

反対討論

市長も議員も最優先とするのは、市民の利益である。

今回のかづの観光物産公社の経営に関する事で、種々報道がされており、いろんな方とお話をさせていただいた中で出された市民の声をお届けする。

「あんたらあが長期にわたり赤字経営が続いていると判断した市長が改善を始め、短期で成果が表れたように見える。さらに改善を進めようとしている最中、前社長に協力を求め、最初のうちは協力的であったが、突然できないという話になった」その理由について、市民はやはり「前社長が関係する会社の役員を務めており、その関係だろうとほぼ思っている。市長もこれ以上の改善を図るためには、そのような者が社長であってはいけないと思っただけ英断を振るったのではないか」というのが市長の行動に対する意見であった。

一方で議員に対しては「解任があまりに唐突で市民に受け入れられないことが騒動になっていないことを主張している。解任の手續きに法的な問題があるのではないか」とか「今まで議論を重ねてきているが、報道されているようにはっきりとした証拠が示されていないので平行線が続いているのではないか」というような意見が大半であった。



本会議場での起立採決の様子

市民の目には「議員が関係する会社の側に立っているのではないか」とか「もつと市民のためにやることがあるのに情けない」、「いまだに市を変えようという民意が示されていた前市長選の結果を受け入れられないのか」、「市民の代表たる議員が行うような行為ではない」という声が聞かれた。

あんたらあの経営についても「今までの市長や議員が赤字を重ねてきたことへの責任は感じていないのか」という方もいる。

市長も議会も市をよくしていこうという方向に向いていない。この状態で、この決議について賛同はできない。

(丸岡孝文議員)